

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 5 部門第 3 区分

【発行日】平成27年11月12日 (2015.11.12)

【公開番号】特開2015-127631 (P2015-127631A)

【公開日】平成27年7月9日 (2015.7.9)

【年通号数】公開・登録公報2015-044

【出願番号】特願2014-179461 (P2014-179461)

【国際特許分類】

F 2 8 F 9/02 (2006.01)

F 2 8 D 1/053 (2006.01)

B 6 0 H 1/00 (2006.01)

B 6 0 H 1/32 (2006.01)

F 2 8 F 9/04 (2006.01)

【 F I 】

F 2 8 F 9/02 3 0 1 B

F 2 8 D 1/053 A

B 6 0 H 1/00 1 0 2 C

B 6 0 H 1/32 6 1 3 C

B 6 0 H 1/32 6 1 3 E

F 2 8 F 9/04

【手続補正書】

【提出日】平成27年9月25日 (2015.9.25)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】請求項 2

【補正方法】変更

【補正の内容】

【請求項 2】

互いに並設配置されるとともに、内部に流体が流通する複数のチューブ（2）と、
前記チューブ（2）の長手方向端部に配置されるとともに、前記複数のチューブ（2）
の並設方向に延びて前記複数のチューブ（2）に連通するヘッダタンク（5）とを備え、
前記ヘッダタンク（5）は、前記複数のチューブ（2）が接合されるコアプレート（5
1）と、前記コアプレート（51）に固定されるタンク本体部（52）と、前記コアプレ
ート（51）と前記タンク本体部（52）との間をシールする弾性変形可能なシール部材
（53）とを有し、

前記タンク本体部（52）は、前記コアプレート（51）にカシメ固定されている熱交
換器であって、

前記コアプレート（51）は、前記チューブ（2）が挿入接合されるチューブ接合面（
511）と、前記シール部材（53）が配置されるシール面（512）とを有しており、

前記チューブ（2）の長手方向の端面（20）から前記チューブ接合面（511）まで
の前記チューブ（2）の長手方向の距離は、前記チューブ（2）の長手方向の端面（20
）から前記シール面（512）までの前記チューブ（2）の長手方向の距離よりも短く、

前記チューブ接合面（511）と前記シール面（512）とは、前記チューブ（2）の
長手方向に対して傾斜した傾斜面（513）を介して接続されており、

前記チューブ（2）は、前記チューブ接合面（511）と、前記傾斜面（513）の少
なくとも一部とに挿入接合されており、

前記シール面（512）と前記傾斜面（513）との成す角、および、前記チューブ接
合面（511）と前記傾斜面（513）との成す角は、それぞれ鈍角になっていることを

特徴とする熱交換器。